

もくじ

- ・ みにくいアヒルのこ

みにくいアヒルのこ

げんさく： アンデルセンどうわ

イラスト： かつなが みつとし

へんしゅう： イエローボードプロジェクト

ある、なつの あついひ。
のうじょうの いけの ほとりにある、
しげみのなかで、いちわの アヒルが、
たまごを あたためていました。

まもなく、たまごが ひとつ、
またひとつと われはじめ、
なかから きいろい はねの、かわいらしい
ひなどりたちが かおを のぞかせました。

「まあ、かわいい こどもたち」

おかあさんアヒルは めをほそめて、
ひなどりたちの はねを くちばしで
つくろいました。

しかし よくみると、ひなどりたちの なかに
いちわだけ、ほかの ひなどりたちとは
どうも すがたの ちがうこが いました。
ほかの ひなどりたちよりも、
ひとまわり からだが おおきく、
はねのいろも きいろではなく、
うすよごれた はいいろをしていました。



5

ときがたつにつれて、だんだんと、
そのひなどりは、ほかの きょうだいたちから
いじめられるようになっていきました。

「おまえは、みにくいね。
ほんとうに ぼくたちの きょうだいなのかい？」
「おまえみたいに へんな アヒルとは、
あそんであげないよ」

みにくいアヒルのこは、なみだをながしながら、
すいめんにつつた じぶんの すがたを
みつめました。

「ああ、どうして ぼくだけ、
こんなに みにくい すがたをしているんだろう。
みんな、ぼくなんて いなくなればいいと
おもっているんだ」

みにくいアヒルのこは、みんなのまえから
すがたを けすことにしました。

